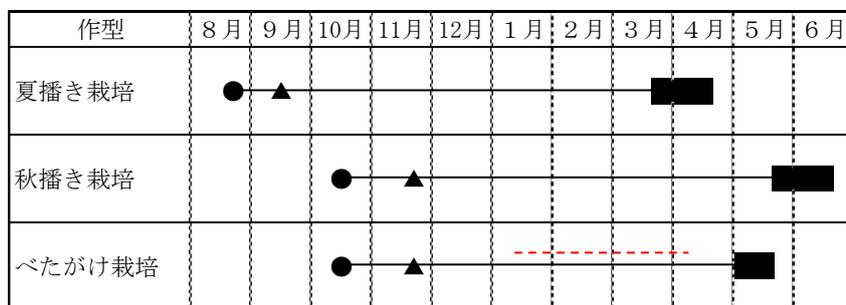


2017年9月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 東総野菜研究室
	職名及び氏名	上席研究員 町田剛史
題名	加工・業務用春どりキャベツのべたがけ栽培	
備考	【表説明】加工・業務用春どりキャベツの作型	

加工・業務用には寒玉系キャベツが主に用いられていますが、抽台により出荷量が減少する4～5月の安定供給が望まれています。4月中旬までの出荷は、夏播き栽培でまかなわれますが、5月下旬頃から出荷するためには、10月に播種して年内に定植する秋播き春どり栽培が行われます。この秋播き栽培にべたがけを加えることで、さらに前進化を図ることができます。べたがけ栽培では、「ことみ」（日本農林社）や「YR 五月っ子」（中原採種場）等の早生性と晩抽性に優れる品種を10月15～20日に播種し、11月下旬に定植します。べたがけ資材にはパスライト（ユニチカ）等が適しています。これにより、収穫期が無被覆の栽培に比べ1週間程度早くなり、地域やその年の気象条件により多少前後しますが、5月上中旬からの出荷が可能となります。

べたがけ開始を11～12月とした場合、年内に過度の保温となって、抽台や雑草が発生したり、早く収穫を開始できても加工・業務用出荷としては結球重が軽いまま裂球してしまいます。これらを防ぐために、べたがけは1月まで待ってから開始します。べたがけ栽培の途中で中耕・培土や除草を行うには、べたがけ資材をいったん外さなければなりません。1月のべたがけ開始の直前に中耕・培土して、通路部分の除草を行い、併せて菌核病等の防除をしておくことで省力的です。ただし、べたがけ中であっても生育状況の確認は怠らず、必要に応じて雑草や病害虫の防除、追肥を行います。（596文字）



加工・業務用春どりキャベツの作型

注) 凡例 ●: 播種、▲: 定植、.....: べたがけ、■: 収穫  
東総野菜研究室（旭市）における試験結果から作成